

RACE REPORT

Japanese Endurance Race

Super Taikyu

ENEOS BRIDGESTONE

Auto Labo

#290 AUTOLABO Racing 素ヤリス

ENEOS スーパー耐久シリーズ2024 Empowered by BRIDGESTONE
第2戦 NAPAC 富士SUPER TEC 24時間レース

日時：2024年5月24～25日 サーキット：スポーツランドSUGO
予選日：2024年5月24日 決勝日：2024年5月25～26日
入場者数：25日26,400人 26日23,300人 3日間合計54,700人

ドライバー：Aドライバー横尾 優一 Bドライバー村田 悠磨
Cドライバー北川 剛 Dドライバー安田 大夢
Eドライバー伊藤 大輔 Fドライバー高橋 利幸

< STEL専有走行 >

シリーズの中でも最も過酷で、山場とも言える富士24時間レースがいよいよ始まる。今年もAUTOLABO Racingは、現在SUPER GT500 TEAM au TOM'Sの伊藤大輔監督をお招きし、チーム一丸となって24時間に挑んでいく。木曜日には90分間2本の専有走行と夜間走行が行われた。事前の合同テストからマシンセットを変更してきており、まずはマシンチェックの為、北川がコースイン。続いて村田、伊藤、高橋へとドライバー交代をしていき、1本目の走行が終了。2本目の走行も安田、横尾と走行しマシンのチェックを行った。各ドライバーともマシンの感触はよく、決勝に向けマシンを温存しての走行となった。夜間の専有走行では、横尾がドライブ。夜の走行に向けライト位置の調整を行い、早々に走行を終え、予選に向けてマシンのメンテナンス行うこととなった。



< 予選 > クラス13位 / 14台中

昼頃から徐々に青空が広がりはじめた予選日。12時から公式予選が始まった。開幕戦とは異なり、この第2戦ではAドライバーとBドライバーの合算タイムにより決勝のスターティンググリッドが決定する。まずはAドライバーの横尾がアタック。2周目を計測し2分10秒132をマーク。そして、Bドライバーの予選では、村田が1周目の計測で2分10秒479となり、A/Bドライバーの合算タイムでクラス13番手から決勝スタートすることが決定。このあと、Cドライバー予選の北川は2分10秒891、Dドライバー予選では安田が2分12秒798で規定タイムをクリア。Eドライバーの伊藤は決勝で使用するブレーキの焼き入れを行いながら2分13秒752、Fドライバーの高橋は2分14秒161で規定タイムをクリアしていった。



AUTOLABO Racing PARTNERS



YOSHINO MOTORS

Real Gate

Real Gate
ريال جات

KTC



株式会社
ミライズ

RACE REPORT

< 決勝 > 11位 / 14台中

上空を雲で覆われた富士スピードウェイ。15時、ローリングスタートにより24時間にわたる戦いの火蓋が切られた。スタートドライバーは横尾が担当。オープニングラップから予定していた2分11秒~12秒の安定したラップタイム周回を重ね、43周目に村田へとドライバー交代。村田も初の24時間とは思えない安定したラップで走行。スタートから3時間が経過しクラス11位。89周目、北川へドライバー交代。ここまでトラブルもなく順調だったが、100周目のストレートで突然エンジンがストップ。ピットロード出口にマシンを止め、リペアエリアへとマシンが運ばれていく。そこでメカニックが原因究明を図り、コンピューター系のトラブルから燃料が来ていない事が判明。その場でエンジンをバラシ、原因と思われるパーツの交換。スタートから9時間が過ぎた頃、メカニックに懸命な作業により息を吹き返し、再びコースへ。その後は順調に周回を重ね、136周目に安田へ交代。この頃から霧雨となり、コースコンディションはウエットへと変化していく。183周目に伊藤へバトンを繋ぐ。更に雨脚が強くなり厳しい状況の中、スリックタイヤでの走行が続いた。221周目、横尾へドライバー交代。



268周目には村田へとドライバー交代。徐々に夜が明け始めると共に、雨も上がり始めたがウエットコンディションは変わらず難しいコンディション。296周目のピットインと同時に、マシンのメンテナンスタイムに入った。フロントはブレーキローター、パッドの交換。リアはブレーキドラムアッセンブリでの交換。エンジンオイル交換、タイヤ交換、給油をメカニックは8分弱という迅速な作業を行い、北川へと交代し再びコースへと戻った。徐々にドライコンディションへと回復する中、リアのブレーキに違和感を感じていた北川だったが、344周目に安田へドライバー交代。どうやらABSが作動しておらず、ブレーキバランスがリア寄りになっているのではないかと。ブレーキにトラブルを抱えながら走行を続けた安田だが、突然ブレーキが効かずコースオフ。なんとかピットまで辿り着き、再びリアドラム交換を行った。すぐさまコースへ戻り、372周目に伊藤へとドライバー交代。スタートから18時間が過ぎ、クラス13番手を走行。416周目高橋へと交代。ピットでは村田がスタンバイしていると、#230号車と接触との無線が入り、443周目に緊急ピットイン。ホイールが破損しており、タイヤ交換と同時に村田へドライバー交代。コースへと戻る。接触が原因でロアアームが曲がっていたが、マシンをゴールへと導いていく。483周目、伊藤へ最後のドライバー交代。このままチェッカーを迎えるかと思われた、残り30分。再びブレーキが効かなくなり、ここで3回目のドラム交換。AUTOLABO Racing、3年目の24時間は519周を走り、クラス11位でチェッカーを受ける事となった。

< 代表コメント >

レース結果自体にも満足はしていませんが、スタッフや、スポンサーの皆様、ファンの皆様が全力で応援してくれたおかげで、11位完走で走り切れた事は素直に嬉しいです。レース中起きたトラブルも、トヨタの開発の方と共同で原因追及し、レース復帰出来た。このトラブルが市販車への安全性と耐久性へ活かされる事になるレースにもなりました。



AUTOLABO Racing PARTNERS

